

彼岸に心見直して

今年の夏の暑さは、昨年より厳しかったようです。というのも、本堂前にある先祖の火のろうそくが温度急上昇して、ろうそくが倒れます。かつて設置したときにはろうそくが倒れることなく最後までついていました。それほど、近年の温度上昇には驚きです。地球の温暖化による環境の変化が著しいことを改めて実感しました。この先、地球はどうなるのか心配でたまりません。こうした中で、私たちの子どもや孫たちが、しあわせな暮らしを出来るように、自然環境を考え、仕事に見合う収入が出来る社会、即ち地域の発展を考えてやらなければなりません。

そうしないと、私たちの住む地域に人がいなくなり、豊かな自然の中で生きて行くことができないのではないかと一抹の不安を感じています。

我慢する心が、人々には欠けているように思います。「子どもが切れる」と言う言葉が有るように、子ども同志のケンカから取り返すことの出来ない悲惨な事件、事故が、起こり続けて居ます。本当に悲しいことです。どうか命を大切する心を培いたいものです。慈悲心と不借身命が、お経の中に有ることを多くの人々に伝え、誰にでもやさしい社会づくりに貢献していきたいと考えています。



いましめ 戒とはよき習慣を見つける

お釈迦様は、八十歳でお亡くなりになる間際にお弟子の方々を枕元に集められて、最後の説法をされました。人はみな戒めにしたがって生

きるべき」と示されました。

戒めは、インドの言葉で「シーラ」といい、よき習慣を身につけるという意味です。つまり、罪を犯したら、罰則があるということではなく、他から強制されたからと言うことでもなく、自主的に遵守すべき行為を選び、自ら実践し習慣づけていくことであります。

その在家の人々に示された戒めは五つあります。

- ① 不殺生 無益な殺生をしない。
 - ② 不偷盗 盗みをしない。
 - ③ 不邪淫 邪な男女の交わりをしない。
 - ④ 不妄語 うそをつかない。
 - ⑤ 不飲酒 迷いの酒や思想に及ばない。
- ところが、生きる上でこれら五つの戒を守る事が出来ない。盗みをしたくないことと、男女の邪な交わりをしないことの二つの戒は意思を持つことで守れますし、守らねばならない戒です。

また、うそをつかないことは、実際の暮らしの中では難しい。うそは方便とあるように、うそをつくことで相手を生かし、励ますこともあるので、相手に不利益や害を及ぼさうそは言わない。酒の飲み方を誤れば、身を滅ぼしたり人に迷惑をかけることがある一方、上手に飲めば円満な人間性を引き出す。酒は「百薬の長」とも言われて、健康増進にもつながります。

この五つの戒を守ることが、よき習慣を見につけ幸せに生きる道であると信じて実践すればきつといいことがある。

高島門中大蔵経会法要が

永田、長盛寺で厳修します。

今年の大蔵経会法要が、旧高島町の永田区内の長盛寺で開催されます。壇信徒十四戸、心ひとつになって、他のお寺に負けじと一生懸命、境内地と本堂を整備し、皆様をお迎えするべく、頑張っておられますので、是非、縁を結んでいただき、お参りくださいますようお願い申し上げます。

開催日時 十月十六日(日)

午前八時半より十七時

なお、大蔵経会供養袋を各壇信徒に配布させていただきますので、出来ますなら、一千五百円程度、少額でも結構です。ご協力お願いします。

今がいちばん

お互い日々の生活の中で様々な困難に出遭う。なぜこんな目に遭わなければならぬのかと心暗くなるような出来事が起こることもある。そんな苦難のただ中であって、人は明日につながる希望つなごうとする。今日辛くても、我慢していれたいときが来る。生きて良かったと思う日がきつと訪れる・・・。

大事なものは、困難が過ぎ去るのをただ耐えて待つのではなく、最善の努力を尽くしてこれ乗り越えること。そうした姿勢に徹して試練と向き合い、克服していつてこそ今がいちばんいいという人生をおくる事ができるのである。いつかではなく、今を幸せに生きるの道を積極的に求めて生きたい。



御十夜のご案内

今年の御十夜は、土曜日、日曜日に開催したいのですが、既に埋まっています。従いまして、十一月十一日、(金)に開催させていただきます。

内容としては、いつものように先祖様に感謝する十夜袋を奉納していただき、ご詠歌で感謝申し上げます。その後は、久しぶりに落語会をしたいと思しますので、ご来場いただけますようよろしくお願い申し上げます。その落語家は、土井隆君(こまち亭まんまさん)に

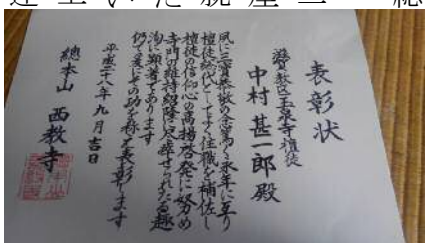
出演いただけるよう調整をしています。こまち亭まんまさんは、当山の壇信徒の方です。乞う、ご期待ください。

この度、中村甚一郎様が、今年四月、総代の任を終

本山より中村甚一郎様に 感謝状をいただきました

えられました。

平成八年より二十年あまり、総代としてご奉仕いただきました。その足跡を振り返りますと、二十六世晋山式、本堂、鐘楼堂の屋根葺き替え等の大宮繕事業の成就に尽くされました。その人徳をたたえまして、本山より、感謝状をいただきましたので、九月十日に玉泉寺本堂で中村様に感謝状の伝達式を行わせて戴きました。



毎月法話会

毎月十五日に開きます。本堂開きますので、連絡してね。職員日記に毎日更新してご覧ください。

びんずる会の活動

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。ので、皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九
天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基
電話 〇九〇—三七〇八—七二〇六
FAX (〇七七)五〇二—二二七九
Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp
新Eメール info@gyokusenji.com
ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をごらん下さい。